

山梨放送

活動名	YBS アナウンサー読み聞かせキャラバン
実施期間	令和 5 年 8 月～令和 5 年 11 月
実施回数	会場 3 回

【事業実施の成果・課題】

<成果>

- ・コロナ禍以降、久しぶりに開催した主催イベントだったこともあり、数多くのお客さん（聴衆）が集まった。ここ数年は、保育園・幼稚園での開催に限っていたため控えていた、「ラジオ・TV・SNS を通じた募集」も積極的に行うことができ、功を奏した。
- ・これまでは、開催園や学校の園児・児童だけが相手だったが、今回は「子どもと保護者」を対象に開いたことで、読み方に幅が広がった。会場を巻き込むための手法としても、これまで以上に工夫を重ねる必要があり、読み手のスキルも向上した。
- ・「食育」「SDGs」に合うテーマの絵本として、今年度、新たに本を数冊購入した。これまであまり扱わなかったテーマの本を読むことは、読み手にも新鮮な経験だった。
- ・毎回、絵本の作者・こいでなつこさんを招いてトークを展開してから「読み聞かせ」に入ったが、こいでさんの絵本制作へ思いや、おススメの読み方などを知ったからか、聴衆の皆さんが、余計に熱心に聞き入ってくれた印象を持った。
- ・（感想欄に書きますが）参加してくれたお客さんからは「読み方の参考になった」「アナウンサーに会えてうれしい」「絵本作者のお話が聞けたのは貴重な経験」など、おおむね好意的な感想を頂いた。
- ・第 2 回、第 3 回は大型ショッピングモールでの開催だったが、読み聞かせの後、（テナントに入っている）本屋さんで絵本を購入するご家族連れが多かったと聞いた。また、絵本を購入してすぐ、作者・こいでさんにサインを貰いに来た方も。絵本への興味を喚起できたこと、子育て世代に響く読み聞かせができたことは、大きな喜び。

<課題・反省>

- ・コロナ禍以降に入社した若手アナウンサーにとっては、大きなイベントに関わることで自体が少ないため、積極的に「読み聞かせ」に起用したかったが、業務の関係で、初回の 1 人（岡本アナ）しか参加させられず、残念。
- ・大きなプロジェクターに絵本を映しての読み聞かせだったが、第 2 回（イオンモール）では、商業設備え付けのプロジェクターの位置が、読み手とは 90 度真横になってしまい、読んでいる姿と絵本を同時に見てもらうことが出来なかった。その時だけ読み手が横に立つなど、工夫しても良かったなど反省。（次回への課題）

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

＜櫻井和明アナウンサー＞（第 1 回、第 2 回 参加）

ご両親をはじめとする保護者を前にしての回だったので、例えば、幼稚園などで読む時より少しだけ声のトーンを下げるなど、全世代向けに響く読み方を工夫してみた。家に持ち帰って真似できる（真似してもらえる）読み方にしたいとの思いだったが、参加した方から“参考になった”と感想を頂き、こちらとしても自信になった。

＜和泉義治アナウンサー＞（第 2 回、第 3 回 参加）

・午前に 1 冊、午後に 3 冊を読み聞かせたが、やはり「3 冊くらい読む」方が、配分としてはバランスが良い。聴き手（お客さん）側に聞き入る姿勢になって頂くにも、1 冊では短すぎると感じた。

・絵本「ねえ、どれがいい？」は、ショッピングセンターで買い物客が多いという環境を考えると「少し幼児向け過ぎるかな」と思ったが、実際には、小学生低学年くらいの子どもも楽しんでいる様子だったので、ホッとした。

・（第 2 回開催時に読んだ経験を踏まえ）第 3 回では、YBS オリジナル絵本「ぼくはイーサヨ まかせていーさよ」で、歌部分にフリを付けて（振り付けして）行ったところ、みんなノリノリで一緒にやってくれた。改めて“絵本から広がる可能性”を感じた。

＜村上幸政アナウンサー＞（第 3 回 参加）

・私自身、子どもを対象にした読み聞かせの経験がほとんどなかったため、お客さんの皆さんの反応すべてが新鮮だった。絵本「ねえ、どれがいい？」の中の問いかけに対し、一生懸命に手を挙げてくれたり、考えたりしてくれた様子は非常にありがたかった。

・「どうやったら聴衆を巻き込めるかな？」と、作品の世界に入り込んでもらえるような“伝え方”を工夫することに意識を向けたが、こういったことを考える事こそ、アナウンサーとして本来あるべき姿ではないか、と再認識できた気がする。「声色」や「問いかけの“間”」、「表情」など、あらゆる術を使って会場の一人一人に届けるといふ、表現者として、とても大切な要素が含まれているのが「読み聞かせ」で、自分のスキルを見つめ直す良いきっかけになった。なにより、たくさんの笑顔が見られ、有意義な時間となった。

＜営業企画部：早川真紀さん＞（イベント責任者）

・イベントでは、読み聞かせ以外にも、食育講座、ミニコンサートステージ、ワークショップ（ぬりえコーナー・各種クラフト）なども同時開催。終日、家族連れで盛況でした。

・山梨放送制作の絵本「ぼくはイーサヨ、まかせていーさよ」では、途中、主人公が歌う一節があり、第 3 回では和泉アナウンサーが、自身が考えた“振り付け”を披露。会場の皆さんを巻き込んで一緒に行い、大人も子どもも楽しそうに体を動かすことで、会場に一体感が生まれました。

・絵本「ねえ、どれがいい？」では、村上アナウンサーが質問形式で会場に呼びかけ、参加した皆さんが手を挙げて答える時間を設けました。会場の皆さんを巻き込むことで、「読み聞かせ」を、より楽しんで頂けたようで、特に印象的でした。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<小学生低学年 2 人+ 30 代母親で参加>

普段、TV やラジオでおなじみのアナウンサーとは言え、絵本を読んでいる姿は初めて見た。やはり声が良いなーと思いつつ、絵本の読み方が、一番、参考になった。子どもたちも、私たちが読んでいる時とは明らかに違う反応で、食い入るように聞いていたのが印象的でした。

<幼稚園児+両親で参加>

絵本の作者（こいでなつこさん）の、制作への想い、考え方、絵本の楽しみ方が聞けて、とても貴重な経験だった。そして、さすがアナウンサーさんですね！子どもだけでなく、親の私たちまで夢中で聞き入ってしまいました。楽しかったです。

<小学生高学年+ 40 代母親で参加>

アナウンサーの読み聞かせを是非聞いてみたくて参加しました。“らくご絵本”が、子どもだけでなく大人も楽しめて良かった。(我が家では) 読み聞かせをしたりする機会はありませんが、読書の時間を作ろうと思いました。

<幼稚園児、小学生低学年+母親で参加>

途中、一緒に身体を動かしたり、一緒に考えて好きなものを選んだりする時間があって、子どもたちも飽きずに参加できました。今後も同じようなイベントがあれば、家族みんなで、また参加したいです。